

市町村指定文化財取材票《表》

取材日	2023年	2月	25日	(記入者) 小倉つき子	
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：常光寺の木造毘沙門天半跏像				

所在地	奈良市押熊町212				
所有者(取材 対応者)名	常光寺	***住職	連絡先 0742-45-3272		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	常光寺				
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造毘沙門天半跏像 / 1977(昭和62)年5月15日指定			
	建造物 棟				
文化財指定 理由	片足を垂下して坐る毘沙門天像は全国的にも数が少なく、中でも平安時代後期の本像は古例として貴重。				

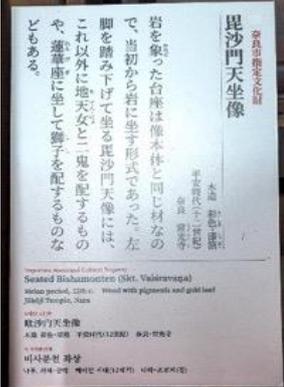
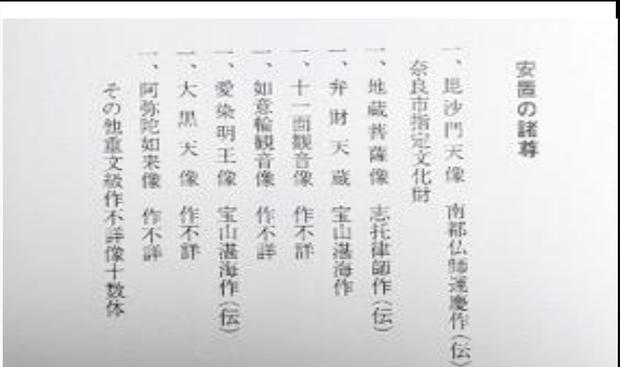
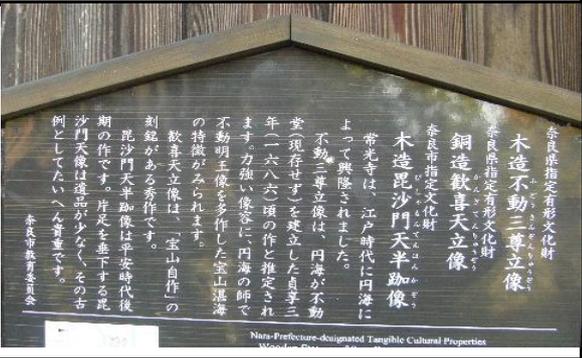
文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂奥に本尊はじめ約25軀の仏像群安置のための土蔵の奥殿(収蔵庫)を十数年前に建築。土作りのため頑丈でかつ防火にもなる。奈良市指定仏の木造毘沙門天半跏像は、奥殿入口左にご安置されている。(撮影不可)	礼堂からは県指定の本尊不動明王三尊像しか拝めないが、奥殿に入ると本尊を中心に須弥壇三方に25軀の仏像がずらりと並んでおられ、圧巻。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	小動物が入って来ることができないよう、堂内すべての隙間を塞いでいる。	本来防犯対策用設置の赤外線感知器だが、蛾が飛来してきただけでも反応するという。おかげで獣害対策も万全に。
管理者の全 体的要望・ 提案など	県指定の仏像2軀と市指定毘沙門天像を含めて25軀安置されているが、すべて生駒山宝山寺湛海作と伝わる。当寺中興の祖円海道珍との深い師弟関係により、多くの湛海彫刻が残された。これら諸仏を守っていくことが当寺の使命である。	

取材を終えて感じた文化財保護状況の全体的今後の課題(修復、維持、管理、環境など)
江戸初期は隆盛していたが、奈良市史によると「常光寺は宝山寺奥の院ともいわれ、真言律宗の寺であったが、明治初年に一時廃寺となった(後略)」とある。だが、当時の住職や近隣の信者たちにより宝物を守り抜き、昭和27年に単立寺院・常光寺を復興。奈良県指定仏2軀、市指定仏1軀を所有していることから、行政からは行き届いた防火対策をうけている。

市町村指定文化財取材票《裏》				
取材日	2023年	2月	25日	(記入者) 小倉つき子
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：常光寺の木造毘沙門天半跏像			

備考：仏像の写真撮影は不可

文化財指定名 木造毘沙門天半跏像	
常光寺山門	毘沙門天半跏像説明 (奈良博毘沙門天展より)
	
常光寺案内リーフレットより	常光寺案内リーフレットより
	
奈良市教育委員会による説明板	記入者の感想
	市指定の毘沙門天像の上半身は、手に宝塔を持ち、剣を構える通形だが、下半身は左足を踏み下げて岩座に座るといって特異な姿。憤怒の形相より、全体に丸みを帯び穏やかに彫刻されており、平安仏の特徴を表している。像高36cm余の小像だが、重量感のある毘沙門像である。毎年6月6日に奥殿安置の諸仏が公開され、25軀の湛海作の像を見ることができる。廃仏毀釈の折、寺院と地域が一丸となり仏像を守りぬいた気迫を伝えている。